

■ □ ■ 一般質問の録画映像をご覧ください ■ □ ■

9月定例会から、インターネット中継（議会初日・一般質問・議会最終日）を行いました。ライブ配信後の録画映像も随時配信しています。

今回の一般質問は、11人が当局の考え方を質問しました。

議員の氏名の下にQRコードを掲載しました。一般質問の録画映像をスマートフォン・タブレットなどでご覧いただけます。

議会初日



議会最終日



※QRコードを使わずに伊豆の国市ホームページからアクセスする方法は、議会だより10ページに掲載しています。



**問** 友好都市交流について  
モンゴル国のソングノハイルハン

**問** 2年前の台風19号の市内被害や、7月3日の熱海市伊豆山の土砂災害を踏まえて伺う。①当市の過大な盛土の実態調査結果は。②災害発生時の対応で、市内宿泊施設に避難する場合はどう対応すればよいのか。③地区公民館建替え補助金制度は令和7年度まで10年間の時限立法となっている。公平性の観点から恒久的な制度にすべきではないか。

**答** ①県から緊急点検実施の要請があり、49カ所実施した。結果は、人家や道路が直接被害を受ける箇所は無かった。②宿泊施設への避難は、長岡温泉旅館組合関係で24軒あり、市のホームページに公開している。自主避難で宿泊費は自己負担(食事なしの素泊まり)。③各区に対し1300万円補助は継続したい。1世帯2万円の加算分は白紙であるが、財政状況踏まえ検討したい。

**防災関係の市の対応について**



古屋 鋭治



無償払い下げ要求は、現在の市財政状況などから行わない。


**問** 旧大仁高校グラウンド借用等について  
県から借用して市民が利用出来るグラウンドにしてはどうか。高校跡地全てを無償提供してもらおう考えは。

**答** 高校跡地グラウンドは、市内グラウンドの利用状況などから新たに利用する事は慎重に検討しなければならぬ。

区との交流は、英語圏との交流を模索する市長の考えもあり継続するのか。新たな英語圏との交流時期はいつか。

**答** ご指摘の都市とは、平成27年以降令和元年度まで交流してきているが、市としてどのような成果があったのかは疑問がないわけではない。今後は、無理のない可能な範囲でお付き合いをしていく。英語圏との交流は子ども達が義務教育で英語を勉強しており、都市交流によりコミュニケーションを行い、さらに英語を勉強しようという動機付けにできると考える。

時期に実施したいと考えている。



友好都市交流 (弓の体験)

高齢化社会における  
ごみ出し支援について



菅原恵子



**問** 市内3地区の中でも葎山地区の資源ごみ集積場所は可燃ごみと同じ34力所しかない。高齢者が重い資源ごみを持って移動することは危険でもあり、他地区の市民と比べると、公平性に欠けるのではないか。

**答** 今後も区から増設の要望があれば対応していきたい。公平性の観点からは、市としても合併以来の課題として捉えている。

**問** 高齢者のごみ出し支援は非常に現実的な問題であり、本市では65歳以上の高齢者が33%を超え、高齢化が進むが現状をどのように捉えているか。

**答** 環境省では本年3月高齢者のごみ出し支援制度の手引きを出した。高齢者のごみ出し問題はますます重要になると認識しており、既存の取り組みを調査した上で、部局が連携し継続的かつ安定的に運営できる仕組みを構築する必要があると考えている。今後、具体的に検討していきたい。

**問** 生活支援体制整備事業では互助の

強化が必要とされているが、ごみ出し支援に関してもこの考えを活用するの

**答** 行政が関わる公助だけでなく、地区として取り組めるか検討の可能性はある。この事業の充実を図り、地域での支え合い活動を支援していく。



**問** 人口減少対策として、今何ができるか

**答** 少子化対策として市が取り組んでいる施策は何か。その効果と今後は。

**答** 新生活応援補助金制度は今年度3件の相談、移住就業支援金制度は5件相談を受けている。同時に使うことも可能で今後も継続していきたい。今後ワーケーションやリモートワークの環境整備に努め、移住促進を強化したい。

**問** 結婚に伴う引っ越しや家賃などの経済的な支援をする結婚新生活支援事業を実施する考えは。

**答** 近隣市町でも参画していて、経済的不安の軽減につながると考えるが、検討の余地もある。

検討の余地もある。

コロナワクチン接種の課題  
と福祉医療の連携について



天野佐代里



**問** 寝たきりの自宅療養者・施設利用者等の、支援が切実に必要な人に、支援の手は届いているのか現状は。

**答** 高齢者福祉施設入所者を対象に、7月から8月にかけて巡回による2回接種を完了。障害者入所施設においても調整を行っており、接種体制が整い次第実施する。自宅療養者は、接種方法等を検討中であり、田方医師会と調整を行った上で実施したい。

**問** 災害対策の施策の検証を

**答** ライフラインの確保に近隣市町や自衛隊・消防署との連携の必要は。

**答** 水の確保は、沼津市・熱海市以南の9市9町で災害時等の相互応援に関する協定を締結し、ペットボトル飲料水をはじめ物資の供給などを行っている。小室地区・沖ノ原地区・茅野地区の一部など水道供給は伊豆市と連携している。日頃の関係を密にして連携・信頼関係の構築が大事だと思う。

**問** 少数避難対応の場(寺・地区公民

館など)が必要では。

**答** 立地場所の災害リスクを把握した上で自主避難の一つの方法であると考ええる。広域避難所ばかりではなくコロナ禍の関

係、様々な対応策として避難者について連絡をいただければ対応を考えた



熱海市土石流災害現場  
駿東伊豆消防本部の捜索活動

**問** 組織・機構改革は市民目線で進めるべき

**答** 福祉事務所と健康づくり課等、関連部門が分散配置されている現状についても不便の声が多い。組織・機構の見直し方針と時期は。

**答** 転入時や福祉関係の手続が1カ所で済まされず、不便をかけている。各部から選任した若手職員による組織改編検討委員会を立ち上げ、12月定例会で条例改正の議案を提出したい。可能な限り市民サービスの向上及び関連業務の緊密な連携が図られるよう見直しを検討したい。

## 一般質問

## プッシュ型

## 行政サービスの推進を



森下 茂



**問** 主な助成制度の受給資格者への通知方法と、情報を知らないがゆえに申請に至らない市民に対して、市はどのように考えるか。

**答** 広報誌やホームページ、登録した市民へLINE及びメール等での情報発信をしている。この場合も、市民にきめ細かい内容の情報を発信していくことが重要であると認識している。

**問** 自治体DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進計画について。

**答** 伊豆の国市DX推進計画を策定し、マイポータルを活用する行政手続きのオンライン化により行政サービスをより便利に、また行政機能の高度化、効率化をはかる。

**問** 市民サービス向上のため、マイナンバー制度の活用を視野に入れたプッシュ型行政サービスを取り入れる考えは。

**答** 今後、マイナンバーカードを利用したプッシュ型行政サービスを進めていきたい。

子どもとお年寄りの熱中症対策について

**問** 高齢者世帯への熱中症対策は。

**答** 夏の季節には各種健康相談に併せ、熱中症の予防と対処法リーフレットを配布し啓発に努めている。

**問** 小・中学生への熱中症対策は。

**答** 熱中症警戒アラート発令時には、運動は中止し、エアコンのある屋内活動に変更。また、こまめな水分補給を指導している。

**問** 子どもたちの命を守るミストシャワー設置について。

**答** 熱中症対策のツールとして効果的であり、各学校の判断の上、必要に併せ導入している。

**気象防災アドバイザーの活用を**

**問** 地域防災力強化について。

**答** 気象防災アドバイザーは、気象庁OB・OGなど気象現象をよく知り、防災の意識を持ち、自治体の防災対応を支援できる人材として、国土交通省より委嘱された方々。派遣してもらうには委託料も発生するので検討する。



気象防災アドバイザー

## コロナ禍の市財政状況と

## 今後の見通しについて



鈴木俊治



**問** 令和2年度一般会計決算の状況と不用額が13億円も出た理由は。

**答** 市税や使用料等は減収であったが、旧大仁市民会館用地の売却収入により大きな決算剰余金を残した。不用額は繰越した事業やコロナ予防接種関係で生じた不用額が大きな要因。

**問** 毎年9千万円を維持した入湯税が、令和2年度ではコロナの影響で、4472万と大きく落ち込んだ。例年通り確保する施策を考えているか。

**答** 2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放映に向けて、各部会で対策中。伊豆長岡温泉等への宿泊を確保するため、鋭意検討している。

**問** 庁舎建設基金、財政調整基金等の今後の方針は。

**答** 新庁舎建設は、市長任期中はない。庁舎建設は多額の予算が必要となる。予算編成上可能な範囲での積立てを行っていくことが賢明。財政調整基金は、30億円程度の確保を目安にする。

**問** 中期財政計画は、3年から5年で

策定し、その計画を市民に公開していくべきと思うが、市の考えは。

**答** 令和4年度の予算編成を踏まえた上で、向こう3年を見通して提示する。また、議員が考える通り、計画や見通しを、市民に公開するは当然だと思う。

**農地の維持とその対策について**

**問** 荒廃農地の面積及び増加要因は。

**答** 市内の荒廃農地は106.5ヘクタール。平成27年から5年間で8.7ヘクタール増加。増加の主な要因は担い手の減少。

**問** 農地の維持を主に置いた事業は考えられないか。

**答** 例えば、幹線道路や鉄道沿いの耕作放棄地を花畑に。浮橋や田中山に、滞在型の市民農園を造る等考えられる。

**問** 農業従事者の高齢化による農業用排水路の堆積土の除去や除草の滞りへの対策はどの様に考えているか。

**答** 水路内の土砂堆積が著しい場合は、市が除去することを検討している。



江間地区で連鎖する耕作放棄地